

Cisco Prime Infrastructure 1.2

データシート

Cisco Prime Infrastructure 1.2

統合ライフサイクル管理とアプリケーションの可視化で、ビジネスとネットワークの変革を加速

概要

ビジネスとネットワークの変革によって、従来の IT ネットワーク管理に新たな課題が生じています。クラウドやデータセンターの仮想化に加え、普及が進む音声とビデオが増加したことによって、ネットワーク インフラストラクチャ全体で高レベルのサービスや高品質のエクスペリエンスが求められるようになってきています。このような新しいサービスとアプリケーションでは、問題がエンドユーザ エクスペリエンスに影響を及ぼす前にプロアクティブなトラブルシューティングと問題解決を行うための高度な可視性が必要とされます。

Cisco Prime の概要

[Cisco Prime for IT](#) は、IT 部門によるネットワーク管理とサービスの提供を効率化するための管理製品ポートフォリオであると同時に、革新的な戦略でもあります。

Cisco Prime for IT の戦略は、基盤となるネットワーク サービス管理と、一般的な属性のセットで構築されています。シスコのアーキテクチャ、テクノロジーおよびネットワーク全体において、直感的なワークフロー指向のユーザ エクスペリエンスを提供します。Cisco Prime for IT 製品ポートフォリオにより、ネットワーク管理の簡素化、運用効率の向上、エラーの削減、およびネットワーク サービス配信の予測可能性の向上が実現します。

Cisco Prime™ Infrastructure は、こうした課題に対応するため、1 つの統合ソリューションで有線/無線アクセス、キャンパス、およびブランチ ネットワークの包括的なライフサイクル管理を行い、エンドユーザ接続とアプリケーション パフォーマンスの保証の問題に高度な可視化を実現します。

Cisco Prime Infrastructure は、新たなサービスの展開を加速させるほか、モバイル デバイスの安全なアクセスと管理を実現して、企業の IT 部門が BYOD (個人所有デバイスの持ち込み) に実際に対応できるよう支援します。また、クライアント認識機能とアプリケーション パフォーマンスの可視化、ネットワーク制御の緊密な連携により、妥協のないエンドユーザ エクスペリエンスを

実現します。さらに、[Cisco Identity Services Engine \(ISE \)](#) との密接な統合により、セキュリティやポリシー関連の問題を広範囲で可視化し、クライアント アクセスの問題を完全に表面化させて、問題解決の明確な道筋を提示します。

統合ライフサイクル管理を簡素化

Cisco Prime Infrastructure は、Cisco Prime Network Control System (NCS) の無線機能と Cisco Prime LAN Management Solution (LMS) の有線機能を¹ 組み合わせることによって、エンドツーエンドのネットワーク インフラストラクチャに関連する多くの日常的な保守・ 管理作業を 1 つに集約して簡素化および自動化します。この新しい統合ソリューションには、RF 管理、ユーザ アクセスの可視化、レポート、およびトラブルシューティングといった既存の無線機能すべてに加えて、検出、インベントリ、構成およびイメージ管理、自動導入、コンプライアンスレポート、統合ベスト プラクティス、レポートなどの有線ライフサイクル機能が備わっています。ライフサイクルプロセスをベースとした新しい運用モデル (図 1) では、ネットワーク オペレータの業務遂行方法に合わせて、次のような製品機能を提供しています。

- **設計** - 新しいネットワーク サービスやテクノロジーの展開に必要な構成を評価、計画、作成。主なネットワーク リソース、デバイス、属性のモニタリングに使用するテンプレートも作成します。デフォルトのテンプレートとベスト プラクティスに基づく設計が提供され、Cisco Validated Designs とベスト プラクティスに必要な作業を自動化して、素早く、すぐにも使用できる実装を実現します。
- **導入** - ネットワーク変更の展開と実装のスケジュールを作成します。変更には、設計フェーズで作成された発行済みテンプレートや、ソフトウェア イメージのアップデートのほか、ユーザが実装したその時々の変更やコンプライアンス要件の更新への対応などが含まれます。これによってサービスの展開が促進され、エラーの発生リスクが最小化されて、スケーラビリティが向上します。
- **運用** - 事前定義済みのダッシュボードで、ネットワーク全体の健全性をモニタリングし最新ステータスを把握できます。シンプルなワンクリックのワークフローと 360 度のビューにより、トラブルシューティング能力が向上し、ネットワーク問題の解決時間が短縮されます。統合型のアラーム ディスプレイには詳細な調査・ 解析結果が表示され、実用的な情報を入手できるほか、Cisco Technical Assistance Center (TAC) にサービス リクエストを自動的に申請できます。
- **レポート** - 詳細なインベントリ、構成、コンプライアンス、監査、容量、販売終了日、セキュリティの脆弱性など、ネットワークの最新情報をさまざまな事前定義済みレポートとして提供します。
- **管理** - アプリケーションの健全性を維持するための使いやすいワークフローを提供し、デバイス、ユーザ、ソフトウェアを最新の状態に維持して、IT スタッフが他の重要業務に集中できる環境を整えます。

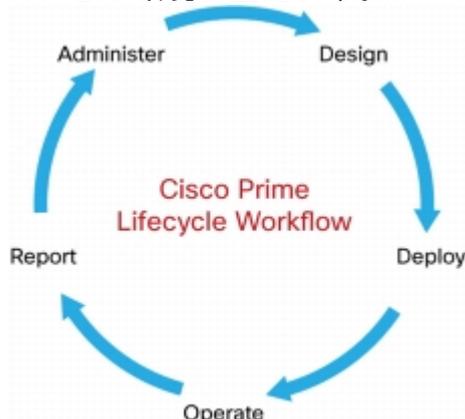


図 1 運用ライフサイクルワークフロー

アプリケーション デリバリとエンドユーザ エクスペリエンスを向上

Cisco Prime Infrastructure ではライフサイクル管理とアシュアランスが統合されているため、ネットワーク マネージャはネットワークだけでなく、ネットワークで提供されるサービスもより効果的に管理できます。デバイス管理機能を運用監視ワークフローに組み込むことによって、ユーザ、アプリケーション、ネットワークを多次元かつ総合的に表示できます。こうしたアプリケーションの認識とネットワークの知識の強力な組み合わせにより、ネットワーク管理者は運用の効率化を図ることができ、ビジネス ニーズへの迅速な対応、問題の特定と修復の迅速化、インシデントや問題発生率の低減が可能になります。

Cisco Prime Infrastructure では、NetFlow、Network Based Application Recognition (NBAR)、Medianet、Performance Agent、Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) などのシスコの OS 組込み機能と業界標準テクノロジーを使用して、ネットワーク全体でのアプリケーション認識と可視化を実現します。運用監視と高品質なエクスペリエンスワークフローを提供し、ツールの設定やデータ収集の煩雑さを低減でき、ネットワークとアプリケーションのパフォーマンスをすばやく簡単に把握できます。さらに、Cisco Prime Network Analysis Module (NAM) と統合して、1 つまたは複数の NAM からフローベースやパケットベースの細かなデータを収集し、関連付けを実行できるため、詳細な分析やトラブルシューティングを実施して、アプリケーションやネットワークの難しい問題を迅速に解決できます。

企業コンプライアンスや法令遵守をサポート

Cisco Prime Infrastructure には、継続的なコンプライアンスおよび監査機能が備わっているため、IT 部門がネットワークやデバイスの構成を監視および評価して、ポリシー違反や相違、セキュリティやリスクの脆弱性を検出できます。堅牢なコンプライアンス エンジンには事前定義済みのルールが搭載されており、業界やシスコのベスト プラクティスに合わせてカスタマイズされたポリシー分析を実行できます。また、販売終了日や Product Security Incident Response Team (PSIRT; プロダクト セキュリティ インシデント レスポンス チーム) など、シスコからのアドバイザリに対するポリシー分析も可能です。さらに、法令遵守ライセンスでは、PCI DSS (クレジットカード データ保護基準) などの業界ガバナンス基準に照らしてポリシー分析を実行する最新ルールが提供されます。

運用コストを削減

Cisco Prime Infrastructure は、スケーラブルな一元管理ソリューションのため、必要な管理ソリューションの数を減らして運用コストを大幅に削減できます。Cisco Prime Infrastructure は、数千台のルータおよびスイッチと数百台のシスコワイヤレス コントローラを管理できるため、最大 15,000 台の Cisco Aironet® アクセス ポイントを管理できます。Day 1 サポート プログラムを利用すれば、新しいシスコのデバイスが出荷当日からサポートされるため、サービスの可用性とトラブルシューティングをはじめとした管理業務のギャップが解消されます。

Cisco Prime Infrastructure には、物理アプライアンスと仮想アプライアンスの両方のオプションが用意されているため、拡張性を損なうことなく柔軟に導入し、簡単にインストールおよび設定して、サービス性と持続可能性を確立できます。

特長と利点の概要

表 1 は、Cisco Prime Infrastructure の特長と利点の概要を示しています。

表 1 Cisco Prime Infrastructure 1.2 の特長と利点の概要

特長	利点
グローバルなプラットフォーム	

運用効率

シスコの統合ベスト プラクティス

運用の改善

管理業務

ライフサイクル
集中型管理

総合ライフサイクル管理

アシユアランス

エンドユーザ エクスペリエンスのネットワーク毎のモニタ
リング

Flexible NetFlow バージョン 9 のサポートと高度なトラブル
シューティング

構成/モニタリング テンプレート

音声、ビデオの監視および分析を行う専用のダッシュボード

ワイヤレス

Wireless LAN Controller (WLC) リリース 7.3 のサポート

次世代マップ

自動階層作成
自動スイッチ ポート 追跡
サードパーティ製品のサポート
拠点および WAN

構成管理

- 合理化されたワークフローで、ユーザ
- コンテキストに応じたダッシュボード
- IT 管理者の経験を問わない柔軟なユー
- Cisco Prime Infrastructure Toolbar クラ
- Apple iOS デバイス向け Cisco Prime In
- シスコのナレッジ ベースとの統合によ
- Day 1 サポートで新しいシスコのデバ
- Smart Interaction でサービス リクエス
- 仮想マシンと物理アプライアンスの柔
- 組み込みのハイアベイラビリティ機能
- ロールベースのアクセス制御によって、
役立ちます。
- 柔軟な認証、許可、およびアカウント

- エンドツーエンド インフラストラクチ
- 幅広い探索プロトコルをサポートして
- First (OSPF)、ルーティング テーブル
- 柔軟なグループ化とサイト プロファイ
- Device Work Center から、ネットワー
- カスタマイズ可能な事前定義済みのシ
- コンポジット テンプレートにより個々
- 自動導入ワークフローの Plug-n-Play (
- ブランチ、キャンパス、WLAN アクセ
- Cisco ISE および Cisco Secure Access
- 統合ワークフローおよびツールにより、
- 堅牢な事前定義済みのコンプライアンス

- 詳細分析ダッシュボードを使用して、
- ユーザのエンドポイントを拠点毎に追
- 時間を基にしたデータのフィルタリン
- Flexible NetFlow テンプレートと未加工
- 標準 NetFlow をサポートし、経験則に
- 共通のソフトウェア フィルタに基づき
- パケット、フロー、および MIB データ
- 事前定義済みの収集計画に基づいて、
- しきい値テンプレートによって重要な
- 音声、ビデオ、RTP のトラフィック全
- 音声/ビデオ分析には、Network Analys
- 拠点やクライアント レベルで RTP のヤ

- WLC リリース 7.3 で導入された新しい
- が可能なハイ アベイラビリティ (HA)
- 新しいマップ エンジンでは、高解像度
- アクセスできます。
- マップが自動生成され、正規表現を使
- シスコのスイッチおよびポート情報を
- RFC 1213 と Aruba Networks のワイヤ

- Dynamic Multipoint VPN (DMVPN)、
- DMVPN、GETVPN、ACL、Enhanced

製品仕様

表 2 は、Cisco Prime Infrastructure の製品仕様を示しています。

表 2 Cisco Prime Infrastructure 1.2 の製品仕様

項目	仕様
VMware	VMware ESX/ESXi バージョン 4.1 または 5.0 小規模の仮想アプライアンス <ul style="list-style-type: none"> • RAM : 8 GB 以上 • ハード ディスク空き容量 : 200 GB 以上 • プロセッサ : 4 つの仮想 CPU (vCPU)
仮想アプライアンスのリソース要件	中規模の仮想アプライアンス <ul style="list-style-type: none"> • RAM : 12 GB 以上 • ハード ディスク空き容量 : 300 GB 以上 • プロセッサ : 4 基の vCPU 大規模の仮想アプライアンス (VMware ESX/ESXi 5.0 のみ) <ul style="list-style-type: none"> • RAM : 16 GB 以上 • ハード ディスク空き容量 : 400 GB 以上 • プロセッサ : 16 基の vCPU 特大規模の仮想アプライアンス (VMware ESX/ESXi 5.0 のみ) <ul style="list-style-type: none"> • RAM : 24 GB 以上 • ハード ディスク空き容量 : 1200 GB 以上 • プロセッサ : 16 基の vCPU
クライアントの最小要件	クライアント ハードウェア : 1 GB の RAM (2 GHz 以上のプロセッサの使用を推奨) (ブラウザ : Internet Explorer 8.0 または 9.0 (Chrome プラグイン))、Mozilla Firefox 7.0 ~ 12.0、または Chrome 19.0
管理とセキュリティ	SNMPv1、v2c、v3、Cisco TACACS+、PNG、JPEG、および AutoCAD (DXF および DWG) インポート ファイル形式をサポート <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Integrated Services Router (ISR) • Cisco アグリゲーション サービス ルータ (ASR) • Cisco Catalyst® スイッチ • シスコ ネットワーク分析モジュール • Cisco Wide Area Application Services (WAAS)
サポートされるデバイス タイプ	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Nexus® スイッチ • Cisco MDS 9000 シリーズ マルチレイヤ スイッチ • シスコ モビリティ サービス エンジン (MSE) • Cisco Wireless LAN Controller • Cisco Lightweight アクセス ポイント • Cisco Autonomous (自律) アクセス ポイント

表 3 は、仮想アプライアンス サイズ (小、中、大、特大) に基づいた Cisco Prime Infrastructure のスケーラビリティの制限を示しています。Cisco Prime アプライアンスは、大規模の仮想アプライアンスに相当します。スケーラビリティの制限と適用性は、対応する機能セット (ライフサイクルのみ、アシュアランスのみ、ライフサイクルおよびアシュアランス) によって異なります。アシュアランス機能セットを使用する場合は、大規模または特大規模の仮想アプライアンスが必要になります。

表 3 Cisco Prime Infrastructure 1.2 のスケーラビリティ

項目	仮想アプライアンス サイズ (ライフサイクル アシユアランス ライフサイクルおよびアシユアランス)			
	小規模	中規模	大規模 (Cisco Prime アプラ イアンス)	特大規模
デバイス数*	2,500 - -	6,000 - -	11,000 5,000 5,000	18,000 18,000 18,000
Lightweight アクセス ポイント	3,000 - -	7,500 - -	15,000 - 5,000	15,000 - 15,000
1 秒あたりのイベント数**	100	300	300	1,000
1 秒あたりのフロー	-	-	- 16,000 16,000	- 80,000 80,000
有線クライアント数	10,000 - -	20,000 - -	50,000 - 25,000	50,000 - 50,000
無線クライアント数	33,000 - -	75,000 - -	200,000 - 75,000	200,000 - 200,000

* サポートされるデバイス タイプのデバイスになります。NAM 管理にはアシユアランス機能セットが必要で、最大 40 個の NAM をサポートできます。

** 管理対象ネットワーク デバイスから受信した syslogs または SNMP トラップのイベントとなります。

統合ソリューション

Cisco Prime Infrastructure は、インストール可能な単一のソフトウェア パッケージとして提供されており、[2](#)必要に応じて階層型ライセンス オプションで機能や保証範囲を拡張できます。ベース ソフトウェア ライセンスと 1 つまたは複数の以下の機能セット オプションをインストールするだけで簡単に使用できます。

- ライフサイクル管理 - ルータ、スイッチ、アクセス ポイントなどのシスコのデバイスのネットワーク管理に関連した日常的な運用タスクを簡素化します。
- アシユアランス管理 - 豊富なパフォーマンス インストルメンテーション データの正規化と関連付けによりアプリケーション レベルの可視性を実現し、アプリケーション デリバリと最適なエンドユーザ エクスペリエンスを確立します。
- コンプライアンス管理 - PCI DSS 規格に対し、法令遵守分析とレポート作成を実施できます。
- 自動導入ゲートウェイ - 大規模環境と DMZ 実装へのリモート自動導入を通じて、スケーラビリティと機能提供をサポートします。

発注およびライセンス情報

Cisco Prime Infrastructure 1.2 では、新規のお客様向けのオプションに加えて、Cisco Prime Infrastructure、Cisco Network Control System、Cisco Wireless Control System (WCS)、および LMS の既存のお客様向けのアップグレード オプションをご用意しています。詳細については、『Cisco Prime Infrastructure 1.2 発注およびライセンス ガイド』を参照してください。Cisco Prime Infrastructure 1.2 の評価版入手ガイドにも情報を記載しています。

テクニカル サービスのオプション

Cisco Prime Infrastructure ソフトウェア製品には、シスコによる 90 日間のソフトウェア保証が付いています。Cisco ソフトウェア アプリケーション サポート プラス アップグレード (SASU) サービスを購入すると、メンテナンス リリース、マイナー アップデートやメジャー アップデート、オンライン リソース、Technical Assistance Center (TAC) のサポート サービスなど、保証に含まれないサービスもご利用いただけます。

Cisco Prime アプライアンス オプションには、シスコによる 90 日間ハードウェア保証が付いています。デバイス保証に Cisco SMARTnet® サービスなどのテクニカル サービスの契約を追加すると、Cisco Technical Assistance Center へのアクセスが可能になり、重要な業務ニーズを満たす多様なハードウェア交換オプション、ライセンス対象のオペレーティング システム ソフトウェアのアップデート、Cisco.com の豊富なナレッジ ベースとサポート ツールへの登録アクセスも提供されます。

保証の詳細については、<http://www.cisco.com/go/warranty/> を参照してください。

シスコ テクニカル サービスについては、

<http://www.cisco.com/web/JP/services/portfolio/tss/index.html> を参照してください。

関連情報

Cisco Prime Infrastructure の詳細については、

http://www.cisco.com/web/JP/product/hs/netmgt/prime_infra/index.html を参照するか、

ask-prime-infrastructure@cisco.com まで (英語) E メールでお問い合わせください。

Cisco Identity Services Engine (ISE) の詳細については、<http://www.cisco.com/jp/go/ise/> を参照してください。

Cisco Unified Wireless Network の詳細については、<http://www.cisco.com/jp/go/wireless/> を参照してください。

Cisco Network Analysis Module (NAM) の詳細については、<http://www.cisco.com/jp/go/nam/> を参照してください。

Cisco NetFlow Generation Appliance (NGA) の詳細については、

<http://www.cisco.com/web/JP/product/hs/netmgt/nga/index.html> を参照してください。

¹ このリリースでは LMS 機能のサブセットを使用できます。詳細については、LMS 移行ガイドの『Transitioning from Cisco Prime LMS to Cisco Prime Infrastructure』を参照してください。

² 既存の Cisco Prime LMS 4.x ユーザは、オプションの LMS 4.2 イメージを使用できます。機能とデバイスのサポートに関する検討事項の詳細については、Cisco Prime 移行表を参照してください。